

新春特別放談

# 環境問題を考える

## ～舞鶴から環境・エネルギー産業のめばえを～



握手を交わす富田校長(左)上西会頭(中)小野校長(右)

地球温暖化は人々のライフスタイルや、中小企業の事業活動に関わる最も重要な環境問題です。特に二酸化炭素の排出削減のため、化石燃料からクリーンエネルギーに転換することが求められています。そのような中、舞鶴が発展していくために取り組むべき「環境と産業」について語っていただきました。

## 出席者

国立舞鶴工業高等専門学校 校長 小野 紘一氏  
 京都職業能力開発短期大学校 校長 富田 康光氏  
 舞鶴商工会議所 会頭 上西 勝己

## 司会

舞鶴商工会議所広報委員長 廣瀬 久哲

## 司会

あけましておめでとうございます。

本日は皆さんに「環境問題を考える」をテーマに、舞鶴における環境エネルギー産業の創造と集積や、まちの活性化について、大いに夢を語っていただきたいと思えます。



上西勝己 会頭

## クリーンエネルギーへの転換

## 上西会頭

会頭に就任して一年が過ぎましたが、最近私は環境問題への対応が、これからの舞鶴の発展に繋がることだと考えるようになりました。

例えば、舞鶴港に大陸の天然ガスの受け入れ基地をつくったり、

コンパクトなまちづくりで省エネルギーに対応するとか、クリーンエネルギーについていろいろ考えています。

今日は専門家のお二人から、環境問題やまちの活性化について、示唆に富んだご意見をお聞かせいただきたいと思えます。

## 司会

それでは小野校長から、「舞鶴は天然ガス、水素ガスの基地にしたら生き残れる市になる」という持論をお話下さい。

## 小野校長

水素社会の話の前に、今なゼクリーンエネルギーに転換しないとイケないかという、最近、地球温暖化というシグナルが非常にたくさん出てきています。例えば氷河や永久凍土の融解、局所的な豪雨やサンゴ礁の白化などです。

ある学者によると、ある一定の温度を超えると元に戻れなくなり、今はそれに近い状態にあるのではないか、だから今動かないとイケないということです。

世界の年間エネルギー消費量は、石油換算で約90億トンで、その半分が石油です。

日本は現在石油と石炭が約70%、

天然ガスと原子力で約26%で、1990年度からあまり変わらず二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が減らない状況です。

また世界のCO<sub>2</sub>排出量は、石油から43%、石炭から36%出ています。日本はその内の約5%位を出しており、世界第4位の排出国なので、非常に責任があります。

環境問題を考えるとき、一つはエネルギーをクリーン化すること、もう一つはエネルギーの消費を抑えるということが大事です。

## 上西会頭

この間もNHKでバイオマス発電の特集をしていましたが、廃材や竹、藁、籾殻などからバイオエタノールを作るためのスーパー酵母も、メーカーで開発されていると言っていました。

## 小野校長

いま高専が取り組んでいるのは、全国的に放置されたままになっている森林の間伐材を有効利用できないかということです。それで日本学術振興機構から研究費をいただいて、山で間伐材をウッドチップにしてパイプ輸送する方法を考えました。いま実験段階ですが、